

## 1 学校評価 自己点検

当校の自己点検は、平成 25 年 3 月に文部科学省生涯学習政策局から「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に評価項目を設定し、平成 29 年度から開始した。

平成 29 年度の自己点検は、各項目の実施状況を「できている」「一部できている」「できていない」の 3 つの視点から評価した。

平成 30 年度からは、前年度の自己点検で明確になった課題を改善し、各項目の実施状況を「適切」「ほぼ適切」「やや不適切」「不適切」の 4 つの視点から質的に評価できる基準に変更した。

また、自己点検に加え、評価プロセスの客観性・透明性を高め、学校運営の改善を図ることを目的に、学校関係の方々から評価を受ける「学校関係者評価」を開始した。

今年度は、大・中・小項目は変更せず、評価の細項目の重複を見直し整理した。

### 1) 組織体制

学校評価の実務担当として、学校評価委員会を設置している。また、学校評価に関する実施要綱を定めている。

### 2) 重点目標に関連する評価項目

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

	課題	重点目標	評価項目	評価
1	新入生の定員及び総定員の確保	1) 高校訪問及びホームページを適宜更新し、学校の魅力をタイムリーに発信する。	2-5 学生募集の広報	4
		2) 学校訪問及び進学ガイダンスに積極的に参加し、学生確保に努める。	2-8 学生定員の量・質的充足	4
		3) 教職員及び保護者、カウンセラーと連携し、学業継続に向けた心理的サポートを行う。	3-12 学生相談の整備	4
2	看護師国家試験の全員合格の維持	1) 各学年の教育進度及び学生の習熟度に応じた学習支援を計画的に行う。	4-33 資格取得率の向上	4
		2) 模擬試験及び学習状況を分析し、弱点克服に向けて全体及び個別に指導する。		
		3) 学力向上に繋がる指導方法及び学習環境により良い構築のため、計画的に国家試験対策会議を実施する。	4-34 看護実践力の向上	4
3	教職員及び教育関係者と連携した教育体制の強化	1) クラス運営及び実習指導において、チーム及び教員間で連携し、効果的な学生指導を行う。	4-24 教育方法の工夫・研究 4-29 教員の能力開発・向上	4 3
		2) 外部講師と連携を密にし、学習効果が上がるように協力体制を強化する。	4-21 授業の計画的遂行・調整	4
		3) 基礎看護技術の演習を実習指導者の協力を得て、講義と実習の学習継続を強化する。	4-34 看護実践力の向上	4
		4) 全体及び施設別の実習指導者会議を行い、課題の改善及び指導体制の強化に繋げる。	5-42 実習指導体制	4
4	県内就業率の維持・向上	1) 学生の能力や適性、志望に応じた進路選択にできるよう段階的にキャリア支援を行う。	3-11 進路・就職の支援体制	4
		2) 就職・進学情報コーナーを活用しやすいよう環境を整え、タイムリーに情報を提供する。	4-35 就職率の向上	4
5	組織の効率化及び効果的な運営の推進	1) 学校運営上の課題に対して、改善に向けた運営を推進する。	4-19 教育課程の点検・見直し	3
		2) 教育上の課題に対して、改善に向けた業務を推進する。	4-24 教育方法の工夫・研究	4
		3) 経営意識をもち歳出の削減に努めとともに、エコ活動に取り組む。	6-46 経営意識	3
		4) 効率かつ効果的に業務を遂行し、時間管理を徹底する。	6-47 組織の整備 6-55 教職員の協働意欲	4 3

### 3) 評価項目

#### (1) 大・中項目, 小項目数

	大項目(9項目)	中項目(20項目)	小項目数(64)	細項目(166)
1	教育理念・目標	1) 教育理念, 目的, 目標の評価	2	4
		2) 将来構想の明確化	1	2
2	学生受け入れ	1) 学生募集の方法	3	7
		2) 入学選抜の方法	1	2
		3) 学生定員の量・質の充足・学生募集評価	2	4
3	学生支援	1) 学業継続の支援	5	13
		2) 社会人の支援	1	1
4	教育活動	1) 教育課程の編成	3	7
		2) 教授・学習評価過程	6	22
		3) 単位管理	1	3
		4) 指導者の確保・育成	5	12
		5) 学修成果	4	10
5	教育環境	1) 教育環境の整備	4	16
		2) 実習施設の整備	2	7
		3) 安全対策	1	2
6	学校管理・運営	1) 学校経営	3	4
		2) 組織管理	7	22
		3) 教職員の育成	2	7
		4) 卒業生の支援	1	3
7	財務	1) 財務・収支	3	6
8	法令の整備	1) 法令・規程の整備	4	8
9	社会貢献	1) 社会・地域貢献	3	3

4) 自己点検・評価の実施期間 2019年4月から2020年1月までの期間

5) 評価基準 4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

#### 6) 評価結果の検証・分析

##### (1) 教育理念・目標 【自己点検評価: 4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
教育理念・目的・目標の評価	4	1) 教育理念, 目的, 目標, 育成人材像, 職業教育の特色の設定	4	教育目標を「育成人材像」とし, 「求める入学生像」「期待する卒業生像」を明記し, 共有している。
		2) 教育理念・目標・育成人材像の達成状況の点検・評価	3	前年度の課題に対して改善策を講じ, 適宜実践し, 教育目標等に対する達成状況を点検・評価している。
将来構想の明確化	3	3) 学校の将来構想の明確化	3	5年ごとにアクションプランを立案し, 年度ごとに運営方針や重点目標を教職員に周知している。また, その取り組みに対し中間・年度末に点検し, 今後の運営改善に繋いでいる。

##### ○課題

教育目標・重点目標を達成できるよう組織全体で取り組み, 運営上の課題改善に繋げる。

##### ○今後の改善方策

本校の設置目的に準じた教育目標・重点目標等を年度当初・中間・年度末に点検・評価し, 組織運営及び教育活動状況の改善に向けたPDCAサイクルを展開する。

(2) 学生受入れ 【自己点検評価： 4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
学生募集の方法	4	1 学生募集の方法	4	募集要項に「求める入学生像」を明記し、試験の種類・方法を示している。
		2 学生募集の広報	4	学校案内・ホームページ等を毎年見直し、高校生・社会人向けの情報を提供している。
		3 学生募集の活動	4	高校訪問や進路ガイダンス、模擬授業等に積極的に参加している（トータル年120回程度）。
入学選抜の方法	4	1 入学選抜の試験方法	4	入学試験委員会規定に基づき、入学選抜基準や試験方法を明記し、厳正に取り扱っている。
学生の充足・評価	4	1 学生定員の量・質的充足状況	4	総定員は120名、現員122名である。総定員の95%(114名)を維持する目標は達成している。学生の休・退学への対策として、学生の変化をキャッチし早期に対応している。学生相談と連携体制を強化している。
		1 学生募集・学生受入れに関する評価	4	受験者・入学者等の推移を評価し、学生募集や入学試験の方法を見直し、入学試験委員会や運営会議に提案し、改善に努めている。

○課題

学生募集及び学生支援プロセスを評価し、学生定員が充足できるよう継続して活動する。

○今後の改善方策

- 1 学生募集状況及び試験結果から、募集活動や入学選抜方法を見直し、改善を図る。
- 2 学生の生活・学習状況の変化をキャッチし、早期から保護者・カウンセラーと連携し、学業継続できるよう支援する。

(3) 学生支援 【自己点検評価： 4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
学業継続の支援	4	1 健康管理	4	健診後のフォロー健診や保健指導を行い、健康な学校生活を送れるよう支援している。
		2 進路・就職の支援	4	本校の実習病院及び県西地域の病院の就職説明会を実施している。また病院見学会・業者の進路ガイダンスの参加を促している。就職・進路情報コーナーを整備し、学生からの相談はタイムリーに対応している。
		3 学生相談の整備	4	学生相談日は時間割に明記し、計画しやすいよう工夫している。担任は学生と適宜面談し、カウンセラーや保護者と連携しながら支援体制を強化している。
		4 課外活動の支援	4	同好会の活動を支援している。
		5 自治会への支援	4	自治会の活動を支援している。
		6 保護者との連携	4	保護者との連絡を通して、連携を図っている。
社会人の支援	4	1 社会人入学者の認定制度・経済支援	4	大学等の既修得単位の認定や教育訓練給付金制度を活用し、学費軽減に努めている。

○課題

学生が心身ともに健康な状態で、学業を継続できるよう支援体制を強化する。

○今後の改善方策

さまざまな背景をもつ学生の特性を早期に把握し、学生の心身の変化に対応できるよう、保護者やカウンセラー、事務担当者との連携しながら、学業が継続できるよう支援する。

(4)教育活動 【自己点検評価： 4 】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
教育課程の編成	4	1 教育課程の立案	4	教育理念, 目的, 目標, 科目及びその内容について, 明文化している。
		2 教育課程の効果的編成	4	年度毎に教育課程の見直しと共に科目は学習進度に合わせ, 順序立てて編成している。
		3 教育課程の点検・見直し	3	教育課程の見直しは毎年計画して実施している。
教授・学習の評価過程	4	1 学習支援ガイダンス	4	年度初めや実習前にガイダンスを定期的に行っている。
		2 授業の計画的遂行・調整	4	時間割の進度は授業計画通りに行っている。授業科目担当者や実習指導者には事前に授業内容を説明している。
		3 授業科目の担当・時間	3	教員一人あたりの授業時間を週 15 時間以内とし, 授業の準備時間を確保するよう学校運営ガイドラインに示されている。講義は規定時間内である。実習指導は規定時間を超えているが, 学生の記録指導は教員側, 技術指導は施設側と役割を分担し, 指導を強化している。
		4 対象者への実習協力依頼	4	実習協力に関する対象者への説明は病院側が担っている。
		5 教育方法の工夫・研究	4	研究までに至っていないが, 学生の主体性を育む授業構成を工夫している。
		6 授業評価	4	授業評価は内部・外部教員を対象に実施している。授業評価結果を共有し授業改善に活用している。
単位の管理	4	1 成績評価, 単位認定 進級・卒業判定	4	成績の評価, 単位の認定方法は学則に明記している。評価基準に基づき評価を行っている。単位認定会議・卒業認定会議規程に基づき, 実施している。
指導者の確保・育成	3	1 人材確保, 組織編成	4	新人は実習指導を中心に, 中堅はクラス運営を中心にチームを編成し教育活動を実施している。また, 教員組織の業務分担・チームを編成し効率・効果的運営に努めている。
		2 教員の能力開発・向上	3	各教員の領域の研修会・学会への参加, 自己啓発への支援をし, 教育力の向上に努め教育の質の向上に努めている。校内の OJT プログラムは時期・内容・方法を検討している。
		3 学級運営	3	クラスの凝集性が高まるようホームルーム計画を立案し実施・評価している。学生が学級活動の意義を理解し, 自主的に活動できるような方法を検討する。
		4 危機管理・教育	4	防災・消防訓練, 個人情報等の危機管理教育を毎年行っている。
		5 地域の教育ニーズへの協力	4	教員による看護職に関する出前講座や小・中学生向けの「いのちの授業」を行っている。
学修成果	4	1 資格取得率の向上	4	国家試験対策は 1 年次から年間計画に基づき, 段階的に進めている。学年毎の計画を保護者に説明する方法を検討する。
		2 看護実践能力の向上	4	学生の看護技術力向上を目指し, 放課後に演習時間を設け, 教員が指導に当たっている。
		3 就職率の向上	4	今年度の県内及び県西地域への就業者は 98% である。そのうち実習病院への就職率は 65% であり例年同様である。
		4 卒業生のキャリア支援	3	卒業者が来校した際には, 仕事のキャリアアップに関すること等, 教員に相談している。実習病院への就職率が高いため実習指導時に教員から声をかけて支援している。

参考：看護学校養成所の運営に関する指導ガイドライン

「教員の週授業時間数 15 時間以内及び実習指導 3 時間に対して 1 時間の準備時間を確保する」と規定されている。

○課題

- 1 社会情勢と医療のあり方の変化に伴うカリキュラム改正の趣旨を踏まえ、自校のカリキュラムを具体的に編成する。
- 2 「看護学校養成所の運営に関する指導ガイドライン」に準拠し、教員の学生指導への準備時間を確保し、教育力を向上させる。
- 3 校内OJTの実施及びキャリア支援に繋がる教員の育成に努める。

○今後の改善方策

- 1 改正カリキュラムの構築をするために、カリキュラム検討ワーキンググループで年間計画を具体的に立案し実施する。
- 2 実習指導時間に関する規定を準拠するために、実習施設に教頭及び教務主任より主旨を説明し、指導体制を強化して頂けるよう協力を依頼する。
- 3 校内でのOJTを通して、新人・中堅教員を育成し、教育プログラムの充実に図る。

(5)教育環境 【自己点検評価： 4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
教育環境の整備	4	1 校舎の整備	4	必要な教材は計画的に予算化している。
		2 福利厚生	4	学生が自習できる図書室やゼミ室を整備している。学生保険に加入し活用している。
		3 図書室の整備・管理	4	図書は計画的に予算化し、整備している。利用率を高めるために図書を精選して選定し購入している。
		4 教材の整備・管理	4	教材点検を定期的に行っている。演習や実習に必要な教材を計画的に購入できるよう年次計画を立案している。
実習施設の整備	4	1 実習施設の整備	4	実習に必要な討議室・図書・看護用具を整備している。
		2 実習指導体制	4	実習指導者は1病棟に2名以上配置するよう規定されているため、実習施設で計画的な育成を依頼している。
安全対策	4	1 防災・安全教育	4	学校・地域の防災教育に参加している。

○課題

- 1 校内図書室で自己学習できるスペースを確保できるよう検討する。
- 2 図書・視聴覚教材が講義や演習・実習と連携させ学習効果が上がるよう利用方法を工夫する。
- 3 実習施設と連携して実習で使用する図書・看護用具を整え、効果的な教育環境を整える。

○今後の改善方策

- 1 図書室の自己学習スペース設置や教材及び新刊図書購入に向けて予算化し整備する。
- 2 講義・演習・実習に活用できる図書・視聴覚教材を明確化し活用を促す。
- 3 実習施設の学習環境を点検し、必要時に予算化し整備する。

(6)学校管理・運営 【自己点検評価： 4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
学校経営	4	1 運営方針の策定	4	運営方針策定し、その内容を年度当初の教職員会議で周知し、教職員全員が共有している。
		2 事業計画の策定	4	運営方針を基に事業計画を作成し、それに伴う予算措置を講じている。事業計画の執行状況を報告し、教職員に周知している。
		3 経営意識	3	教職員は事業の効率・効果性を追求しながら業務を遂行している。
組織管理	4	1 組織の整備	4	組織図は教職員の配置及び命令系統に沿った役割が明確になっている。
		2 教員・講師の要件	4	教員・非常勤講師の資格要件を満たしている。
		3 危機管理	4	防災・消防訓練、情報管理の安全教育を毎年実施して
		4 学籍の管理	4	電子媒体及び紙面上で一括管理している。
		5 教職員の職務分掌	4	職務分掌に則り、その役割を遂行している。
		6 会議運営	4	会議規定に則り、適切に運営している。
		7 データ管理	4	データを資料にまとめ、事業の基本資料として活用して

教職員の育成	3	1	目標管理制度, 研修・研究活動	3	管理者は年度初め・中間・年度末に個人面談を行い, 目標管理に関する助言・指導を行っている。研究活動までは実施できないが, 必要時にキャリア支援や研究活動を助言している。
		2	教職員の協働意欲	3	実習指導・クラス運営チームはチーム内の課題を共有し改善に取り組んでいる。チーム間の連携は教員会議を活用している。
卒業生への支援	4	1	卒業生への支援	4	卒業生は現況報告や, 再就業先の相談等の相談を求めて来校することが多い。教員は時間を空け, 卒業生の話じっくり聞いている。

○課題

- 1 教職員は業務の効率・効果性を追求した経営意識を高める。
- 2 教職員の目標達成及びキャリアアップに繋がる教育体制を強化する。

○今後の改善方策

- 1 業務報告会の結果, 明確になった課題を教職員で共有し, 改善に向けて組織全体で取り組む。
- 2 定期面談やOJTを通し, 人材を育成するとともにキャリア支援を行う。

(7) 財務 【自己点検評価： 4】

中項目	評価	小項目		評価	根拠
財務・収支	4	1	中長期的な財務基盤の安定	4	学生定員の充足率の推移を把握すると同時に, 中・長期的な財政基盤を見直し, 安定化に向けて検討している。
		2	予算の適切な執行状況	4	教育理念・教育目標を達成するために毎年計画的に予算編成を策定している。また予算の執行に関して, チェック体制が整備され, 適切に会計処理されている。
		3	会計監査, 財務情報の公開	4	策定した予算・事業計画に基づき, 経費の削減に取り組み適性に執行している。年間計画に基づき会計監査を実施し, 結果や財務情報に関して公開している。

○課題

財務状況や予算の執行状況を教職員が理解し, 財政安定に関する認識を高める。

○今後の改善方策

財務状況や予算の執行状況について, 事業報告会を通して, 事務長から教職員に説明を受け, 共有を図る。

(8) 法令の整備 【自己点検評価： 4】

中項目	評価	小項目		評価	根拠
法令・規程の整備・運営	4	1	法令, 専修学校設置基準等の整備, 適正な運営	4	学校運営に必要な諸規定を整備している。申請・届出は遅滞なく提出している。
		2	個人情報に関する規程の整備	4	規程は点検・整備している。
		3	自己評価の実施, 結果の実施	4	平成 29 年度から自己点検・自己評価を実施し, 公表している。また平成 30 年度から学校関係者評価を開始し公表している。
		4	教育情報の情報提供	4	学校情報はデータ化し公表している。

○課題

諸規定・マニュアルの精度を高める。

○今後の改善方策

諸規定・マニュアルを毎年点検し, 内容を充実させる。また必要時は規定を追加する。

(9) 社会貢献 【自己点検評価： 4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
社会貢献 地域貢献	4	1 学校の教育資源・施設の活用	4	地域の小中学校へ教材を提供したり、講師として活動している。
		2 地域交流の奨励・支援ボランティア活動	4	学生は地域の行事・ボランティアに積極的に活動している。
		3 職業意識の涵養	4	高校生に向けた職業教育に参加し、職業意識の涵養に努めている。

○課題

地域・施設のニーズに応じて、看護学校の教育資源を活用する。

○今後の改善方策

地域の施設と連携し、看護学校の教育資源を提供する。

2 外部アンケートの実施及び評価

1) 実習指導者対象の公開授業

○ねらい：実習指導者から実践的な意見や評価を受けることにより授業改善を図るとともに、教員の看護実践能力及び教育実践能力の向上を目指す。

○授業内容：看護技術演習 13項目

○授業計画：2019年5月30日～2020年2月13日

	月日	曜日	時間	内容	予定者	実績
1	5月30日	木	10:40～12:10	食事介助	約10名	1名
2	6月13日	木	13:30～15:55	足浴	約10名	1名
3	6月20日	木	13:30～16:40	洗髪	約10名	2名
4	7月11日	木	13:30～16:40	全身清拭・寝衣交換	約10名	—
5	7月18日	木	9:00～11:25	バイタルサインの測定	約10名	2名
6	8月29日	木	10:40～12:10	経管栄養	約10名	—
7	9月9日	月	13:30～15:55	おむつ交換、便器・尿器介助	約10名	2名
8	9月25日	水	15:10～16:40	洗腸	約10名	—
9	10月7日	月	13:30～15:55	導尿	約10名	—
10	10月25日	金	13:30～16:40	フィジカルアセスメント	約10名	3名
11	11月14日	木	13:30～16:40	静脈内採血	約10名	1名
12	1月20日	月	13:30～16:40	筋肉内注射	約10名	—
13	2月13日	木	13:30～16:40	点滴静脈注射	約10名	1名

延べ13名

○対象施設：13施設

	施設	施設数	対象者
病院	城西病院、結城病院、友愛記念病院、古河赤十字病院、茨城西南医療センター病院、下館病院、茨城県西部メディカルセンター	7病院	実習指導者等
老健・老福施設	介護老人保健施設すばる、特別養護老人ホームしらとり	2施設	
訪問看護ステーション	愛美園・春風・ゆいナースステーション	3施設	
他	結城市健康増進センター	1施設	

○参加理由

- ・看護基礎教育で行われている学習（演習）に興味があった。6名
- ・今後の学生指導に活用したい。12名
- ・自分自身の能力向上のため。3名

## ○授業の評価

- ・項目「デモンストレーションはポイントが分かりやすかった」「演習は学生の反応を見ながら進められた」は全員が「適切」という意見であった。
- ・項目「演習の時間配分は適切であるか」について、概ね適切であったが、「バイタルサイン測定」の演習時間の時間配分に関して「やや適切ではない」ご意見を頂いた。
- ・参加した演習のほとんどで、看護技術の根拠の導き方や支援方法を見学し、学校での指導方法を確認できたとともに、実習指導に活用したいとの意見を頂いた。

## ○公開授業への要望

- ・全員がよい企画であると回答していた。
- ・基礎教育における技術教育の現状を把握することで、臨地実習指導や卒業後の新人教育に活用したいと積極的なご意見も頂いた。
- ・今後の要望として、「看護過程の展開」が挙げられた。看護過程展開に関する学習プロセスを把握し、実習指導での記録指導に活用したいと考えられる。

## 2) 1年生の保護者対象の授業参観

### ○ねらい

看護基礎教育における授業を保護者に公開することで、看護の学習への理解を深め、家庭と学校の連携した学習支援の協力を得る機会とする。

### ○授業内容

科目：成人看護学概論

テーマ：成人期の健康課題に関するグループ発表

○授業参観日：12月10日(火) 15:10～16:40 (90分間)

○参加者：1学年の保護者41名に郵送し、2名が参加した。他に学生を通して参加を呼び掛けた。

### ○参加理由

- ・看護学校の教育に興味があった。2名
- ・どんな学習をしているか知りたいと思った。2名
- ・授業風景やわが子の学習態度を見たかった。2名

### ○授業評価

- ・授業内容や時間配分・資料や内容が「わかりやすかった」という意見であった。
- ・授業（グループワーク発表）での意見の伝え方や質問の仕方など素晴らしいと感じられていた。
- ・授業参観はよい企画であり、今後も時間が合えば参加したいと好印象であった。

## 4 評価結果の公表 ※別添資料参照

## 5 まとめ

今年度の学校の運営状況は、全体的に「ほぼ適切」から「適切」であった。

「教職員の育成」については、新任教員の育成計画や職場内研修のプログラムを見直し、強化していきたい。

資料：茨城県結城看護専門学校評価委員会規程  
学校評価に関する実施要綱